

## Super Positive Personのすすめ

いままで仕事の関係で実に多くの国に赴任し、違った文化圏に1～3年前後の期間現地に住んできた。地元の人々と文化に触れ、さまざまな交流を通じて自分なりに身をもって確認できたことがある。それは、人生を有意義に楽しく生きている人の多くは自分の価値観と違うものを排除せずに尊重し、どんな人とも良好な人間関係を築くことができる能力を持っている、ということである。このような資質は、生まれつきの性格や生活環境もあるだろうが、読書を重ね、いろいろなことに積極的にチャレンジすることで磨かれると考えられる。このタイプの人は、概して以下のような特徴を持っている。

- 仕事ができる（仕事というのは結局、人と人のかかわりがベースなので当然）。
- 好奇心が強く、熱中できる趣味をもち、いつもワクワクしていて楽観的である（だから前向きなのである）。
- 話題が多く、話をしていて楽しい（仕事でも遊びでも多くの場数を踏んできた結果、話題が多い）。
- 人の痛みがわかる（積極的な挑戦を通じて自分自身も痛い思いをたくさん経験してきている）。
- 気前が良く、見返りを期待せずに人を助ける（ちまちました損得勘定がことの本质ではないことを十分学んできている）。

このタイプの人（ここではSuper Positive Personと呼ぶことにしよう）はあまりいないのだが、日経新聞の“私の履歴書”にはよく登場する。なお、私が今まで世界中で会った中で最高のSuper Positive Personが実は我々の身近にいる。JPEC 事務局の鹿野さんである。今後も彼女以上のSuper Positive Personには出会わないと思うが、彼女を知る人は皆同感に違いない。

さて私はというと、前述の人たちにはとても及ばないが、様々な経験や挑戦が人を磨く、ということは早くから感じ取っていたので自分なりに努力はしてきたと思う。今の会社に勤める前に2年間、前の会社を辞めて、それまでの自分の経験とはまったく違うことにチャレンジしてみた。マーケット調査のために団地を何百件もまわってアンケートをお願いしたり、路上でビラを配ったり（家内から恥ずかしいから止めてくれといわれたが）、韓国まで何度も出かけてパートナーを探したり、ある商材を売るために友人と香港に会社を作ったり……。お金はあまり稼げなかったが、サラリーマンをやっていたのではわからないことを実に多く勉強させてもらった。苦労して自営している人たちの嗅覚がいかに鋭いか、悪い人にだまされるというのがどんな気持ちか、お金を自分で稼ぐのがいかに難しく、しかし楽しいことか、いかに多くのアイデアが身の回りに転がっているか、テレパシーというものを信じられずにいられないぐらい不思議と同じ考えの人と出会ってしまう等々、短い期間であったが経験したことは実に貴重なものだった。

このときの経験から、私は自分の時間は外の世界、より未知な世界を知るために使うべきだと思っている。今でも同僚との付き合いは必要最低限にして、会社と関係ない人達との付き合いを優先している。あるいは一人で出歩く。いまいるシンガポールなどは実に面白いところであり、昼間仕事で顔を合わせている人と夜も飲むなどなんとももったいない話である。

こんなことをいうと読者諸氏から怒られるかもしれないが、私がPEを取ったのはエンジニアという職業に生涯を捧げようと思ったからではない。宇宙開発やコンピューター技術などで世界をリードしてきたアメリカの技術文化

の側面に触れたいと思ったのは事実だが、それよりもむしろ会社以外の人と交流する機会と質を高めるのに有用だと思ったからである。そして実際、それはJPEC への参加につながり、NCEES のメンバーや同じPE あるいはPE を目指すプロフェッショナルな素晴らしい人たちとの交流という形で実を結んでくれている。

JSPE も社外の人、異業種の人、かつ国際人と交流できる絶好の機会である。仕事の話だけでなく、遊びや趣味の話もどんどんやって欲しいし、活動を通じてより多くのメンバーがSuper Positive Person になっているのを心より期待している。最近「遊びの品格」という本を読んだが、お勧めである。